

2020 年度  
自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾  
麻生外語観光&製菓専門学校

## 自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、麻生外語観光&製菓専門学校の2020年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2021年 2月 1日

校 長 瀧口 博俊

自己点検・評価責任者

校長代行 川越 浩

### 目 次

I	教育理念・教育目標（人材育成像）	- 3 -
II	重点項目	- 4 -
III	基準項目 自己点検・評価	- 5 -
	基準 1 教育理念、目的、人材育成像	- 5 -
	基準 2 学校運営	- 6 -
	基準 3 教育活動	- 7 -
	基準 4 学修成果	- 11 -
	基準 5 学生支援	- 12 -
	基準 6 教育環境	- 14 -
	基準 7 学生募集	- 16 -
	基準 8 財務	- 17 -
	基準 9 法令遵守	- 18 -
	基準 10 内部質保証	- 19 -
	基準 11 社会貢献・地域貢献	- 20 -
	基準 12 国際交流	- 21 -

### 評価結果

S：達成度がきわめて高い

A：ほぼ達成している

B：達成がやや不十分であり、若干改善を要する（要観察：放置すると不適合になる）

C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

# I 教育理念・教育目標（人材育成像）

## 教育理念

「志と感謝心」を持ち、変化・多様化していく世の中を生き抜くことができる「業界の専門知識・技術」及び、「社会人基礎力」を備えた混在を育成します。

## 教育目標

### エアライン科

航空運輸業界の接客サービスに必要な語学力、専門知識を身につけ、更にはホスピタリティマインドを備えた人材を育成する

### エアポート科

空港施設の業務に必要な専門知識、資格、技能に加え、将来、業界人としてプロ意識をもち幅広く活躍できるマインドを備えた人材を育成する

### ブライダル・ウェディング科

ブライダル業界に必要な技術や知識、検定資格を身につけ、常に高い志と感謝の気持ちを持ち続けながら現場で活躍できる人材を育成する

### ホテル・リゾート科

国内外のお客様をおもてなしするために、ホテルの各部署に必要な専門的技術や知識、語学力を併せ持ち、現場で即戦力として活躍できるホテルエを育成する

### 国際ホテル・リゾート科

日本のホテルで働くために必要な日本語を学ぶとともに、日本の文化やホテル業界の基礎を理解し、将来日本の企業で活躍できる人材を育成する

### 英語コミュニケーション科

国際的視野を持ちグローバル社会に対応できるコミュニケーション能力や英語運用能力を身につけ、国際貢献を積極的に果たす人材を育成する

### 海外ビジネス科

英語、第2外国語、高度なITスキルを習得し、国内外を問わずグローバルなフィールドで活躍するビジネスパーソンを育成する

### トラベル科

多様化する観光業界で求められる専門知識・技術及び社会人基礎力を兼ね備え、自らが旅の魅力を発信し、観光業界において活躍・貢献、発展へ寄与できる人材を育成する

### 製菓パティシエ科

製菓分野で必要とされる知識・技術のみならず、衛生管理に関わる知識と社会人として必要なマナーとコミュニケーション能力を高め、業界や地域社会の発展に貢献できる人材を育成する

### 日本語科

日常的な場面における日本語のコミュニケーション能力や日本語の知識・技能に加えて、自国と乃本の両方の文化を理解し、異文化に対して柔軟な見方ができ、文化の違いを超えて交流できる人材を育成する。

## Ⅱ 重点項目

### 1. 重点項目

- ① 事務職員の意欲・資質の向上を図るために、計画を立て、研修記録を作る
- ② 授業の質の向上や授業評価の改善を図るため、研修を実施し、記録を整備する
- ③ 検定に関して、達成状況を把握し改善に向けて対策を講じる
- ④ Webサイトで公開している教育成果の情報を更新する

### 2. 取組み状況

- ① 研修実施が十分行われない環境であったため、機会を作り出すことができなかった。その中でも、積極的に受講したものもあり学生指導に活用できた。
- ② オンライン授業の導入により、Teamsを使った授業へ移行したため、Teams 利用に関する勉強会を実施した。また非常勤にもオンライン授業実施を依頼するにあたって、運用開始時のレクチャー等のサポートを行った。
- ③ 検定結果を教務会議や部門会で共有し、常勤担当者や担任だけでなく、非常勤とも結果報告書や振り返りシートを利用し情報交換を行い、問題点または改善すべき点を洗い出した。
- ④ 全校的な案件になるため、システムのタイムリーな更新が難しい。

### 3. 総括（成果と課題）

- ① 計画を立てにくい環境があり、研修受講が十分できなかった。
- ② 常勤を中心にオンライン授業に順応し座学授業だけでなく実習系授業においても Teams を活用しながら授業展開していくことができた。今後は今年度オンライン授業をお願いしなかった非常勤に対し、ご担当いただける体制づくりを確立していきたい。
- ③ 検定結果をもとに、常勤はもちろんのこと担当非常勤とも意見交換を行い、次年度に向けての各検定の問題点を検証できた。
- ④ 全校的な案件になるため、システムの常時更新が難しく、広報と協議が必要である。

### Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

---

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

---

中項目 1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【総括】

法人及び学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像は「学生便覧」に明文化をし、学生・教職員・非常勤講師にも配布し共有を行っている。また3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）も「学生便覧」に明文化し共有している。各ステークホルダーにはホームページを通して公表を行った。

【課題】

特になし。

【今後の取組み】

ホームページや学生便覧に明文化しているが、変更等あれば随時対応していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-1-1	「法人の理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-3	各学科の教育目的および育成人材像を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S

基準 2 学校運営

中項目 2-1

学校の理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営しているか。

【総括】

学校の運営方針は、法人及び学校の理念に基づき定めており、教職員には定期的な会議を通して周知を行っている。事業計画は運営方針に基づき策定され、教職員全員に周知共有している。学校運営の組織や意思決定システムは、学科及び学年に分けて編成されており、適正な運営と迅速な判断を行っている。教務会議を始めとした各種会議体は、定例・非定例を柔軟に開催し、必要に応じた情報共有と意思決定の場として活用している。学生に関する情報管理システムと業務処理に関するシステムは、法人内担当部門が主導で構築されており、定期的な改善活動が行われ、活用しやすいシステムへ改善されている。学校法人として教職員の採用、人事制度、各規程等は整備され、適正に運用している。事務組織については、法人としての事務組織、福岡キャンパス内事務組織と学校独自事務組織が存在しており、いずれも適切な人員配置の基、十分に機能している。なお、事務職員の意欲・資質の向上を図るために積極的に研修へ参加している。

【課題】

特になし。

【今後の取組み】

今年度は運営方針を策定したものの、コロナの影響で変更せざるを得ない状況となった。またその方針を各教職員と共有することが出来なかった。来年度はオンラインを活用するなどし、周知方法を改善することで、周知の徹底を図る。

今後も教務会議や部門会議など学校の意思決定システムを有効活用し、業務の効率化を図っていく。

事務職員の資質向上の取組としては、新型コロナウイルスの感染拡大の中で、開催が限定される中でも研修への参加機会を引き続き創出していく。さらに、来年度は研修内容を報告するシステムを構築し、他の事務職員と知識を共有することで更なる資質の向上を図る。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1-1	運営方針を策定し周知しているか。	A
2-1-2	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S
2-1-3	運営組織や意思決定システムを整備し、また有効に機能しているか。	S
2-1-4	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか。	S
2-1-5	人事に関する制度を整備しているか。	S
2-1-6	教職員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	A
2-1-7	給与に関する制度を整備しているか。	A
2-1-8	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S
2-1-9	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	S

=====

基準 3 教育活動

=====

中項目 3-1

教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【総括】

麻生塾全体の教育理念をもとに麻生外語観光&製菓専門学校としての教育理念を掲げ、各学科の育成人材像を策定にしている。育成する人材像の達成に向け、教育課程編成委員会である企業・団体と情報共有を定期的に行い、企業・業界ニーズにこたえる教育課程の編成と実施方法について協議している。昨年度より便覧に教育理念、育成人材像、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを掲載し、学生及び学校構成員に周知した。

【課題】

特になし。

【今後の取組み】

環境の変化に合わせて、学校・学科の現状を常に分析し、情報収集に努めるとともに、育成したい人材像やカリキュラムポリシー。ディプロマポリシーの検証を続ける。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-1-1	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S
3-1-2	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S

### 中項目 3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

#### 【総括】

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程編成委員会及びカリキュラム会議をもとにカリキュラムを作成し、業界のニーズに合った実践的な職業教育を提供するために見直しを図っている。授業科目を体系的に整備し、科目ごとシラバス・コマシラバスと連動させ、授業目的の学生への周知や実施状況の記録ができています。キャリア教育については、就職実務やGCBの授業を設け、学生の社会的・職業的自立に向け必要な能力や考え方の習得・育成を促している。リメディアル教育としてASOドリルを導入し、年2回のコンテストの実施を行い、学生たちの学習意欲向上と継続に向けて取り組んだ。

パティシエ科など対面授業を主にし技術を教える学科では、オンライン授業で本来の質が確保されたかは不明であるが、今まで全く未経験であったオンライン授業への知識と技術を急速で身に付け、今年度を乗り切ることが出来た。

新型コロナウイルスの感染の影響で、本来目標としていた業種から進路変更を余儀なくされたが、他業種への進路教育を行い、就職内定を頂くことができた。

#### 【課題】

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、ほとんどの学科で予定していたインターンシップが実施できなかったため、現場感覚を養う実務経験の取り込みが難しかった。またオンラインに切り替えた授業について、一部シラバス変更をせざるを得ない科目もあり、学生の理解度、内容の把握が懸念される。

#### 【今後の取組み】

専攻分野に関する企業や業界団体と連携し、業界のニーズや新技術情報をタイムリーに収集しながら、インターンシップ自体の在り方や、時代、環境にあったカリキュラムの見直し、整備を行っていく。



小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S
3-2-4	教育方法および学習指導は適切か。	A
3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員（すべての教員、職員、学生）に周知を図っているか。	A
3-2-6	リメディアル（導入前教育、補習）教育を行っているか。	S
3-2-7	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）が体系的に位置づけられ、実施しているか。	A
3-2-8	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S

### 中項目 3-3

教育の評価を適切に行っているか。

#### 【総括】

前後期各1回授業ミニアンケート、授業アンケート（常勤・非常勤）を実施し、客観的評価を得るようにし、管理職によるフィードバックを行っている。今年度、オンライン授業の大幅導入を受け、管理職によるオンライン授業見学や録画した授業動画の見学を実施しフィードバックを行った。新任教員には、法人による研修を実施すると共に、チューター、部門長による授業アドバイスをを行い授業力向上に努めている。今まで全く未経験であったオンライン授業への知識と技術を急速で身に付け、授業を成立させることはできたが、教員間での知識・技術の格差はあり、それを改善するための取り組みが出来なかった。

#### 【課題】

授業アンケートや授業見学の結果をもっと有効活用する必要がある。

#### 【今後の取組み】

教育推進グループと連携を取りながら、アンケート・授業見学の分析を行い、非常勤も含めた授業力向上につながる研修等を計画的に実行できるよう検討する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	S
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	A

中項目 3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【総括】

教科ごとに作成されているシラバスに則り、適切に授業評価をしている。期末試験・授業内評価を経て適正に単位認定している。また進級・卒業判定についても、学則及び学校規定に基づき担任、管理職等複数の確認を行い実施している。

【課題】

各教科で設定した到達目標にそった評価結果になっているか検証する必要がある。

【今後の取り組み】

前期成績のチェックは完了。後期成績のチェックは2月中旬までに、担任・管理職によるダブルチェックを行う。また次年度対策として、非常勤講師会で確実な伝達を行うとともに、日常的に担任と非常勤担当教員が中心となって評価状況の把握をし、適切な成績評価ができているか確認をする。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S
3-4-2	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S

中項目 3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【総括】

学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮し、必要な教員組織を構築している。新任教員には同部門内でチューターを設置し業務理解をしている。また管理職による運営会議や教務会議を定期的実施し、課題・問題点の情報共有を図り、学校全体の教育体制の活性化に取り組んでいる。法人としても計画的な教職員研修が実施されている。

【課題】

コロナウィルスの感染拡大の影響により、業界団体が主催する研修や企業と連携した研修の実施・参加ができていない。

【今後の取組み】

教育課程編成委員や企業との情報交換を行い、コロナ禍での研修・インターンシップがどのように計画・実施できるか検証する。

インターンシップを受け入れる企業が減少したことで、学生が実体験を積む機会が減少した。代わりに業界人を招き、セミナーを開催することで学生に現場の生の声を聴く機会を提供する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-5-1	法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築しているか。	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげているか	A
3-5-4	教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	A

=====  
基準 4 学修成果  
=====

中項目 4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

教育理念・育成人材像に基づき教育活動、学生指導を行っている。教育の成果である検定取得、成績、コンテスト結果、退学者等の目標数値については事業計画に盛り込み教務会議等で共有している。毎月作成のクラス運営報告書、部門会議等でも現状把握を行い、改善を図っている。各クラスの状況は教務会議で共有をしている。ただし、今年度、コロナ禍の影響で数々の検定の実施が大幅にずれ込んだ。その影響で学生がモチベーションを保てず合格率の低下につながった。

卒業生の状況把握は、就職担当者が企業人事担当者より情報確認をし、担任へ共有している。卒業生情報は教育活動や学生指導に活かしている。

【課題】

検定取得については、留学生数の増加など学生の多様化に伴い、日々の指導が難しくなっている。また退学に関しては、コロナ禍での就職が困難な環境を鑑みて、新たな活動機会の創出を理由に退学・休学者数が増えた。

【今後の取組み】

担任だけでなく、教科指導の教員とも協力しながら、一人ひとりの学生に合った指導方法を検討し、補講等の実施により知識・技術の定着を図る。対面での授業が減る環境の中でも学生一人一人の変化を見逃さないよう、学生とのガイダンスはもちろんのこと、必要に応じキャンパスライフサポートセンターと協力しながら退学防止に努めていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか	A
4-1-2	資格取得率・資格試験および公務員合格率・コンテストおよびコンペ入選の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、教育活動および学生支援の改善を図っているか。	A
4-1-3	資格取得等に関する実施体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S
4-1-4	退学率の低減の取組みが図られているか。また結果を分析し、退学率の低減の改善を図っているか。	A
4-1-5	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	S
4-1-6	卒業生の専攻分野における社会的評価を把握しているか。	A

基準 5 学生支援

中項目 5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

専任教員をクラス担任として配置し、学習面や就職活動のサポートだけでなく生活面に関するアドバイスも含めた支援を個別のガイダンス等で行っている。保護者への連絡も適宜行っており、日常的には、出席や学習状況についての電話連絡や三者面談等の実施や、また就職活動についての保護者会の実施などにより、学校と保護者の間での情報共有を図っている。

また、学内にはキャンパスライフサポートセンターが設置されており、担当者による学生相談後、健康問題（身体的・精神的）であれば校医・専門カウンセラー、就職相談であれば就職担当者、経済的相談であれば学生課担当者にて対応している。またコロナウィルスの感染防止対策として、毎朝の検温実施や、自己健康管理表による学生の健康状態の把握に努めた。就職支援では学内に就職担当を配置し求人票獲得、オンラインによる企業セミナーや選考会誘致など、希望する就職ができるよう支援を行っている。また就職部が導入した面接道場により、個別の面接対策強化を図ることができた。

留学生の増加に伴い、留学生会を立ち上げ、学生とのつながりを深め、学校間での情報交換ができる環境を整えることで、問題点解決につながるなど、留学生のサポート体制が強化された。

【課題】

学生の健康管理において、保健室のベッド数増などの整備が必要である。

【今後の取組み】

他号館の学校とも協力し、急病学生を収容できる保健室でのスペースの確保を検討する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	S
5-1-2	学生の進路支援を適切に行っているか。	S
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	S
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S
5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	S
5-1-7	保護者との連携を適切に行っているか。	S
5-1-8	卒業生・社会人への支援体制を整備しているか。	S
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	A

基準 6 教育環境

中項目 6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【総括】

法人内の担当部門と学校にて担当を分け管理している。法令に則った定期点検を実施し、必要に応じて補修・修繕をおこない、学生が安全に利用できる環境を作っている。各学科の専門教育に必要な設備・機材についても設置しており、知識・技術の修得が出来る環境を整えている。またキャンパス内に総合図書館を設置している。規定やルールを定め学生便覧に文書化し、および教室内に掲示し使用方法について学生への周知徹底を図っている。

【課題】

オンライン授業実施にあたって、教務・学生の授業実施環境の整備が必要であったが、特に学生のパソコン準備が間に合わず、携帯電話での受講となり、Teams を使った授業に入れない、音声途切れるなどの不具合が発生した。

【今後の取組み】

オンライン授業・テレワークの日常化に伴い、特に非常勤講師の wifi 環境の整備等も促していくとともに、次年度よりパソコン利用の推奨と販売、学内の Wi-Fi 環境増を進めていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	A
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	A
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S

中項目6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

コロナウィルスの感染拡大に伴い、多くの学科でインターンシップが中止となったが、実施できた一部学科では、企業と相談、打ち合わせの上、実習内容を確定し、覚書を取り交している。実習前には、学生へ事前教育を実施し、安全管理・リスク対応などの指導を行い、教育効果を上げることができた。

海外研修については、この状況での実施が難しく、中止せざるを得ない環境であるが、一部の学科ではオンライン留学の導入に成功し、新たな学びの機会を得ることができた。

また学内での安全対策では、コロナウィルスの感染防止対策として、毎朝の検温実施や、自己健康管理表による学生の健康状態の把握に努めた。設備については、法規で定められた定期的な設備点検を実施し、必要に応じて修繕・回収を行っている。

【課題】

インターンシップについては、各業界・企業での受け入れが可能かどうかを負うところが大きく、学校側の意向だけでは再開が難しい。

【今後の取組み】

引き続きコロナ禍の運営が続くため、企業や業界団体と連携し、環境の変化を見ながらどのような形での実習実施が可能か模索していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-2-1	実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	A
6-2-2	学校における安全管理の整備を行っているか。	S

基準 7 学生募集

中項目 7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

学校のアドミッション・ポリシーを策定し、募集要項及びホームページに掲載。学校としての求める人材像（学生像）を明確化し社会に公表している。就職実績・資格取得実績については募集パンフレット、ホームページ上、オープンキャンパス時に配布するリーフレットにより適切に情報を発信している。なお、今年度よりホームページを刷新し、最新情報はHPのNEWSに上げるようになった。また広報と連結して最善の情報共有の手段を取っている。Instagram・Twitterを活用し、最新情報を掲載するシステムを構築した。募集活動においては募集要項に志願者が必要とする情報を提供できており、入学者選考も募集要項や県の指針に沿った、公正かつ適切な選考を実施している。学生納付金等も毎年、年初に検証を実施し、他の専門学校と比較しても妥当性のある範囲の金額を設定している。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

最新の教育成果をホームページにて公表、オープンキャンパス時の各学科での学科紹介時に告知していく。特に就職実績に関しては継続的にタイミングの良い告知ができるような体制を整えていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表しているか。	S
7-1-2	募集活動において、教育成果は正確に伝えているか。	A
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S
7-1-5	学生納付金等は妥当なものとなっているか。	S



基準 8 財務

中項目 8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

毎年、年間の予算作成を行い、毎月の予算執行状況は経理グループと共有、協力しながら管理を継続している。必要に応じて法人内で協議、検討し、適切な対応を行っている。貸借対照表からみて、収入と支出のバランスはとれており、法人としての財務状況は安定しており、教育設備の新設や改修等で学生の教育環境を維持できている。あわせて、ホームページ上で財務状況の公表も行っている。

【課題】

特になし。

【今後の取組み】

情報の共有を範囲内（管理職以上の役職者等）で広げ、財務状況を把握できている人員を増やし、複数の視点でチェックできる体制強化を図る。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また予算執行を分析・検証する仕組みの確立がなされているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

基準 9 法令遵守

中項目 9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【総括】

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行うため、法人本部、他関連部署との連携を行い、学校単独で実施可能な事柄と部署間連携で進める事柄にわけ、学校を運営している。また、関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規定についても、改定、変更が生じた場合は迅速に対応を行い、健全な学校運営を行っている。

【課題】

特になし。

【今後の取組み】

各関係法令、及び各関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規定の改定、変更時の確実な整備と周知徹底を継続し、適切な運用を維持する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S

基準 10 内部質保証

中項目 10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【総括】

学校教育・学校運営について毎年「自己点検・評価」を実施し、課題解決に取り組んでおり、その内容はホームページにて公開している。学内においても結果を教職員で共有し、次年度の活動に生かしている。また職業実践専門課程に基づき学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会を開催し、学校の教育活動及び教育内容に関する検証を行っている。委員会における指摘事項は随時改善に取り組み、改善状況については内部監査にて検証されている。また、教職員の自己点検・評価のレベルを均一化するために、委員選定を学科横断的に行い活動の浸透を図った。

【課題】

自己点検・評価の内容は、学内メールでの発信、教務会議等にて共有しており、組織レベルとしては適切に機能しているもの、教員個人レベルにおいては更に理解を深める必要がある。

【今後の取組み】

自己点検・評価、並びに内部監査の内容は随時教務会議にて共有し、活動の意義や必要性について教職員が理解を深められる体制を作る。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	A
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか。	S
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S

基準 1 1 社会貢献・地域貢献

中項目 1 1 - 1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

学生のボランティア活動は推進委員会を設置し、例年では学校教育内容の特徴を生かした連携を図りながら推進しているが、今年度はコロナウィルス感染拡大の影響により、十分実施ができていない状況である。

【課題】

特になし。

【今後の取組み】

コロナウィルスの状況に負うところが大きいため、環境を注視しながら NPO 法人やボランティア団体等と連携し、機会拡充に取り組んでいく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 1 - 1 - 1	公共的な機関として、社会貢献・地域貢献を行っているか。	A
1 1 - 1 - 2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	A

基準 1 2 国際交流

中項目 1 2 - 1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

留学生の生活支援・ビザ申請手続き・在籍管理に関しては国際交流センターが法令を遵守し適切に対応している。また、学生便覧に外国人学生規定を明文化し学生へ周知している。海外留学運営に関しては、海外事業部を中心として各種サポートを行っているが、今年度はコロナ禍で実施ができていないものの、海外留学奨学制度の運用により、留学に興味をもった学生への学びの機会を提供した。

【課題】

特になし。

【今後の取組み】

留学生の多様化により、日本語能力を高める教育力向上、学生一人ひとりのニーズ（ビザ申請、アルバイト紹介、就職支援など）に合わせた対応ができる体制強化が必要となる。そのため学生課、国際交流センター等と連携し、引き続き全教員の留学生対応に関する知識醸成を図ると共に、協力して学生に必要な支援を包括的に行う体制を確立していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 2 - 1 - 1	留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	S
1 2 - 1 - 2	留学生に対する相談体制を整備しているか。	S
1 2 - 1 - 3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S